

時事

地租委譲に就いて

千慮もろだ。彼地主は決して、尋常一種のことで小作料を安くするものか。やつぱり私運小作人が、

此の頃政治家共は、地租委譲をやらせよ、出来ないとか言つて騒ぎ廻つてゐる。どうせ政治家共の稱へることだ、私運小作人にとつては、大いした關係もないのだが、地租委譲を以て、農村問題の最上解決策だなんてぬかす奴がある、ついで一言して見たくなる。

「地租委譲」とは、簡単に言へば、國税である地租を地方役に委譲して、土地を持つてゐる奴の税金を軽くしようといふのだつまり地主の負擔を軽く仕様といふのだ。私運小作人がどうなるかといふのではないのだ。だが或は政治家共は

こらういふだらう。地主の負擔が軽くなれば勢い小作料が安くなるから小作人の負擔も軽くなるだらう。と。だが地主は、地租委譲が實現されたからと言つて、果して小作料を安くするだらうか。否々

地租委譲なんて、少しも農村救済策でなく、立派な地主擁護策だ。

動力使用と小作人

つい五六日前の新聞に、農商務省の何とかいふ馬鹿技師が「動力機械使用と小作人」と題して、實に馬鹿々々しい旨目滅法の議論を發表してゐる。なんでも大坂、岡山の二三の地主が、動力機械を買つて小作人に使用させてゐるが小作人使用が少しも起らない。から全國の小作人に動力機械を使用させる様にすれば、小作人使用が起らないといふのだ。だが若しこの技師がいふように、動力機械を使用する様にすれば、小作人使用が起らないとしたら、大動力を使用する工場に労働争議が起らないことになる。天下廣しといへども此の如き愚論をする奴も餘りないと思ふ。こんな愚い奴の言ふことに、遠はされる奴もないだらうが、少し言つて見よう。

動力機械を使用して、私運小作人が、脱穀やなんかをやつた處で、小作料と稱して收穫物の大半を地主に持ち上げられることのある間は、小作人の利益には少しもならない。反つて小作料を安くされる爲により多くの土地を耕作せねば食へないようになる。その上動力機械買入金金の利子でも拂はせられるのが、關の山だ如何に目醒めない私運だつてそんな馬鹿々々しいことにゴマカサれて、深い／＼原因のある小作人運動をやらすにせられるものか。動力機械に依らず凡る文明の利器は、今日の社會では、資本家の爲、地主の爲にのみ利用されてゐるのだ。私運は先づ、それを

宮内省頼むに足らず

御料地小作人諸君

御料地の小作人問題は、宮内省に依頼してゐたのでは、決して解決されないといふは前説で言つた。だがもうそうした事を理論の上からとやかく言ふ必要がなくなつた。何となれば、北海道神樂村御料地争議の最後の解決策だと稱して宮内省のとつた態度を見ればハツカリとウナツカれるからだ。彼宮内省は常に公平(中間地主と小作人の間に立つて)を装つて居ながら、實際の場合になつたらどうだ。殆んど中間地主擁護を以て終始したではないか。實際耕作してゐないものには、決して拂下げないと言明して居ながら今度彼宮内省の示した解決策はどうだ。地主に七割五分小作人に二割五分なんて、殆んど問題にならないぢやないか。それ處ではない。頑迷横暴の悪名を附けて、地主共と共同して終始小作人を誹謗したではないか。

御料地小作人諸君
以上よくよくと事實を述べたでなくともよいだらう。彼宮内省の目には小作人の貧困は見えないのだ。否若し見えた所で、そんな事は彼等は問題でないのだ。彼宮内省の考へることは、只如何にして中間地主を擁護してやらうか。如何にして中間地主の横暴を支持してやらうかといふことだけなのだ。ただ少しでも彼宮内省の頭を悩ますのは、常に公平扱つてゐるが故に、幾等かでも公平らしくゴマカツウといふことなのだ。

御料地小作人諸君
もう宮内省などのマヤカシに乗つて、彼等に頼るのは止した方がいい。
「實際耕作する者以外には、貸下げ、若しくは、拂下げをしない」といふ、如何にも小作人に味方したやうな宮内省規程なんかあてにした處で駄目だ